

全国 YMCA コースチャレンジプログラム 2019 報告書 「わ～るど・にじいろ・まつり 2019」

関西学院大学 西宮聖和キャンパス 学生 YMCA

標題の件につき、下記の通り、ご報告いたします。

「全国 YMCA コースチャレンジプログラム 2019」では多大なるご支援をいただき、心より感謝申し上げます。本報告書は「わ～るど・にじいろ・まつり 2019」学生代表松崎順平の卒業論文「学校教育における「多文化共生教育」の実践～『わ～るど・にじいろ・まつり』から教育カリキュラムを考える～」（関西学院大学教育学部 2019 年度卒業論文）を一部引用して作成しております。

記

1. イベント名
「わ～るど・にじいろ・まつり 2019」
2. 日時
2019 年 11 月 9 日（土）12：40～17：00
3. 場所
関西学院大学 西宮聖和キャンパス 2 号館 ラーニングコモンズ「リプラ」
4. 主催者
「わ～るど・にじいろ・まつり 2019」実行委員会
5. 目的
多文化共生・異文化理解に興味を持つきっかけづくりの場
6. 概要
 - (1) 学習班
 - (2) 体験班
 - (3) 民族衣装班
 - (4) 模擬店班
 - (5) フェアトレード班
 - (6) 広報班
 - (7) 総務班



7. 内容

(1) 学習班

「世界一周旅行体験ゲーム」が実施された。会場を、アメリカ、アジア・ヨーロッパ、アフリカ、オセアニアの4つに分割し、それぞれで言語・音楽・月の模様・文化・国旗パズルと意味・食べ物の6項目を体験し、これらを達成して自分だけのパスポートを完成させるという企画である。世界中の文化を経験するという目的を持たせている。

(2) 体験班

本年度は、体験を「個々の主観のうちに直接的または直観的に見いだされる生き生きとした意識過程や内容」とし、写真立ての作成を通して「体験」を深める企画となった。その装飾にインド綿を用い、インドの風土の説明を同時に行うことで、参加者がスムーズに理解を深められるように企画された。



(3) 民族衣装班

民族衣装に実際に触れて着ることによって、その国の風土を感じることができると狙いとしており、アジアからアフリカまで多様な民族衣装を取り扱う企画である。JICA 関西・西宮市在日外国人教育研究協議会より各国の民族衣装を借用し、その民族衣装の名称、色の意味、どのようなタイミングで着るのか、などの説明とともに展示を行った。これに加え、一部の民族衣装を着用可能にし、写真を撮ることができるようにした。また、写真をインスタントカメラで撮ることによって、体験班の写真立てと連動できるように創意工夫がなされた。

(4) 模擬店班

本年度は、食を「異なる文化や環境によって変化しつつも受け継がれてきたものであり、今後も変化していく身近なもの」とし、「国や地域による違いを感じ変化を起こすきっかけ」づくりを目的とした。例年、西宮市において多くの割合を占める韓国・朝鮮や中国、ベトナム、フィリピン、ブラジル、ネパールなどの料理を提供してきた。本年度もそれに違わず、韓国・朝鮮のヤンニョムチキンを提供した。

(5) フェアトレード班

フェアトレード商品を取り合い、参加者に南北問題への意識づけを図る企画で

ある。本年度は東ティモール YMCA・ソウル YMCA・大阪 YMCA の協力によってフェアトレード・コーヒーを購入し、販売した。これに加えて社会福祉法人新生会が運営する福祉作業所「たんぼぼさん」のお菓子を販売することによって、「障害」を個性として取り上げ、それを認めていく意識の発信を試みた。

(6) 広報班

大学生の参加動員数が伸び悩んでいることから、Twitter や Instagram といった SNS での広報を重点的に行った。これに加え、閉会式直前の音楽演奏においてピアノの演奏も行った。これによって、多数の民族楽器に子どもたちが触れる機会を設けることができた。

(7) 総務班

① 「ステージ企画」

民族舞踊や民族楽器を披露してもらい、その中で楽器の音色や民族衣装が実際にどのように着られているのかを見ることが出来る企画である。これまで、韓国・朝鮮にルーツを持つ子どもたちを中心とした「コッキリの会」、アフリカ太鼓、ネパール舞踊、インドネシアの民族楽器であるアングルン演奏、韓国朝鮮の伝統舞踊などに出演してもらった。本年度は「コッキリの会」によるチャングの演奏、Club K による三面太鼓の演奏、ARA によるアフリカ太鼓の演奏が披露された。



② 「紙芝居・絵本企画」

昨年度から始まった企画であり、教訓やその国の伝説を、子どもたちが日頃触れている紙芝居で学ぶというものである。市外教・西宮市国際交流協会の協力のもと、紙芝居を読んでもくださる外国人の紹介から絵本の作成依頼など、まったくのゼロから始まった。昨年度はシンガポールの国の成り立ちについての伝説、韓国・朝鮮の民話を紹介した。本年度はミャンマーと韓国・朝鮮の民話、そして初めての試みとして LGBTs に関する絵本、計 3 つを企画した。LGBTs を盛り込んだ背景として、個人レベルの多文化共生を考える機会を設けたかった事が挙げられる。

③ 「多文化リレートーク」

外国籍を有する人または外国ルーツの人といった当事者を登壇者に迎え、自身の経験や思いについて話してもらった後、今後の日本に求めることを日本人をはじめとした来場者とのやり取りから深めていく企画である。ま

た、登壇者の苦悩や思いを「外国ルーツ」の子どもたちが聞く中で、今後の人生におけるロールモデルを見つけてもらいたいという狙いも込められている。大人対象ということもあり、例年来場者の伸び悩みが例年心配されていた。そこで本年度は「外国ルーツの子ども（小学生）への支援」をテーマに掲げ、実際に子どもたちを支援している方3名を登壇者に迎えた。

④ 「“あの子”についてみんなで考えようの会～気になる“あの子”と私の授業～」

本企画は第1回の学生代表 Y さん（早稲田大学大学院生）による持ち込み企画である。現職教職員や大学生を対象に行われた。多文化共生教育について“授業実践”と“子どもの姿”を中心に考えることを狙いとしている。第2回の学生代表 K さん（宝塚市小学校教員）に協力してもらい、ビデオ撮影を行った。最初にビデオを観て、その後多様化する学級の中で、どのように子ども理解や授業づくりをするのかを考え、日頃の学校生活を再構築するためのディスカッションを行う、という流れで行われた。

⑤ 「ふでばこ」企画

「ふでばこ」は、関西学院大学西宮聖和キャンパス学生 YMCA が参加している、西宮市内の外国ルーツの児童の学習支援活動グループの名称である。

「ふでばこ企画」は、「外国ルーツ」の子ども・来場者の子どもを対象に、「将来の夢」「学校生活で楽しいこと」を筆箱に模した画用紙に書いてもらい掲示する企画であり、日頃「ふでばこ」を利用している子どもたちにも参加してもらった。この企画には、子どもは自分自身のことを発信することで日々の生活に目標を持ち、観覧者は当事者の子どもたちがどのような思いを抱いているのかを知ることができる、という両者に向けた狙いがある。



⑥ 「多文化共生表彰式・発表会」

小学校・特別支援学校小学部の児童を対象に、「多文化共生」をテーマとした作文コンクールの表彰式及び表彰者が発表するという企画である。この企画は市外教が主催した「第1回 ともに... 多文化共生社会をめざす子ども作文コンクール」を「わ～るど・にじいろ・まつり」で表彰するという形をとったものである。



8. 所見

来場者の満足度と翌年への反省を把握するためのアンケートを実施した。このアンケートにおいて、「本イベントは『多文化共生・異文化理解に興味を持つきっかけづくりの場』をコンセプトとしています。今後の日常生活や学校生活に生かすことのできるイベントとなっていましたか」という質問に対して、「はい」と答えた人は87.5%であった。「わ〜るど・にじいろ・まつり」を知るきっかけとして、「毎年来ているから」「兄が参加するから」という回答が寄せられた。これらより、「わ〜るど・にじいろ・まつり」のコンセプトと来場者の興味・関心を満たしうる企画内容を提供でき、また「わ〜るど・にじいろ・まつり」の地域への定着と、「外国ルーツ」の人々の関心の高まりが期待できる段階に差し掛かりつつあると推測できる。

以上